

島の課題 記事から探す

県立津名高校（淡路市志筑）で、新聞記事から淡路島の課題を探し出し、解決策や地域活性化の方策をまとめる授業が始まり、2日は新聞記事からデータベース作りが行われた。昨年度に続く2度目の試みで、11月には行政や校外の有識者などを招いた成果発表会も予定している。



「REBORN PROJECT（リボーン プロジェクト）」と名付けられた授業は地域の課題を知って貢献方法を自分で考えて発表することで、地域を支える意識を養い、課題解決やコミュニケーション、プレゼン能力を磨いてもらおうと企画。2年生の文系約130人が「総合的な学習」の授業枠を活用し、半年以上かけて取り組む。

同校は新聞を授業に活用する「NIE（教育に新聞を）実践指定校」となっており、担当教諭は「ネットですぐに情報を得られるが、まずは新聞に触れさせたい。他地域のニュースを地元の問題に応用するなど、考えるところまでできれば」と期待する。

授業では昨年12月から今

津名高「リボーンプロジェクト」 有識者ら招き11月発表

年4月までの新聞を2人1組で熟読し、地域の課題や地域創生に関する記事をリストアップ。データベース化して全員で共有し、課題解決への糸口にしていく。今後は課題の原因や解決策を考え、11月には淡路市職員や大学准教授、地域の人を招いて発表する。

2年生の浦木遙大さん（16）は「普段は新聞を読まないが、伝統文化を継続していくことが観光につながったり、新しい水産加工品を海外輸出しようとして、淡路のいいところが見えてきた」と話していた。



地域課題を探すため、新聞を熟読する県立津名高校の生徒。2日、淡路市志筑